

都市の未来を想像させる、アートとテクノロジーの体験型展示 「都市にひそむミエナイモノ展」今冬、開催決定！

会期：2023年12月15日（金）～2024年3月10日（日）

会場：SusHi Tech Square 1F Space（有楽町駅前）

このたび、東京都は「都市にひそむミエナイモノ展 Invisibles in the Neo City」をSusHi Tech Square 1F Space（有楽町駅前）にて開催いたします。（会期：2023年12月15日（金）～2024年3月10日（日））



人やAI、生き物が抱く記憶や気配、生活を支える技術など 都市にひそむ多様なミエナイモノを体験し想像する展覧会

私たちの都市生活には、多様な“ミエナイモノ”がひそんでいます。人々が都市に抱く、記憶や愛着、気配。VRやAIなどテクノロジーの進化がもたらした、様々な技術。本展では、これらを“ミエナイモノ”と定義し、8組の若手アーティストによるメディアアートの展示や、都市生活を支える隠れた技術の紹介を通じて“ミエナイモノ”を可視化することで、未来の都市生活を想像するヒントを提供いたします。

メディアアートを鑑賞・体験することで、未来の東京についてみんなで考えるきっかけをつくるのがこの展示シリーズを通じた目的です。会期中には作品鑑賞ガイドツアーを毎日実施する他、週末には作品に関連したワークショップやイベントを多数開催し、来場者に主体的な想像や思考を促します。今年8月～11月に開催し好評を博した第1期「わたしのからだは心になる？」展では私たちにとって最も身近な「身体」をテーマにしましたが、第2期では「都市」をテーマに、より「体験」していただける展示を展開します。

「都市にひそむミエナイモノ展 Invisibles in the Neo City」 開催概要

会 期：2023年12月15日（金）～2024年3月10日（日）

休 業 日：月曜日（ただし1月8日、2月12日は開場）、1月9日、1月24日、2月13日、
年未年始（12月29日～1月3日）

開場時間：平日 11:00～21:00（最終入場 20:30）／土休日 10:00～19:00（最終入場 18:30）

入場料金：無料

会 場：SusHi Tech Square 1F Space 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-8-3（東京交通会館向かい）

主 催：東京都

公式サイト：<https://sushitech-real.metro.tokyo.lg.jp/second/>

子どもから大人まで！ 考えて楽しめる展覧会！

●思考の遊び場 プレイグラウンド

会場には、イベントスペースを兼ねた自由空間「プレイグラウンド」を設計。ちょっとした休憩や作品に関する意見交換をしたり、仕事や勉強を行うなど自由にお使いいただけます。多彩なイベントも開催予定です。



●解釈を楽しむ アートコミュニケーター

会場には、鑑賞者の解釈や理解を助けるアートコミュニケーターが常駐。東京藝術大学の卒業生・在学生を中心としたメンバーが来場者の作品鑑賞をサポートします。アートコミュニケーターによる、予約不要の鑑賞ツアーも毎日実施。「アートは難しい」という人にも、分かりやすく解説いたします。



【毎日実施するアートコミュニケーターによる鑑賞ツアー】

- ・ファミリー向け鑑賞ツアー（土休日：14:00-14:30）
- ・ビジネスパーソン向け鑑賞ツアー（平日：18:30-19:00）

●未来を言葉に ボイスウォール

プレイグラウンドには、「ボイスウォール」と呼ばれる壁を設置。展示を体験したあとに、未来に対する鑑賞者一人ひとりのイメージを書いて貼っていたくことで、「わたしの未来はどうなるのか？」を考える機会を創出します。



展示クリエイター紹介（五十音順）



菅野創 + 加藤明洋 + 綿貫岳海

自作の機械やロボットを用いた作品を制作する菅野創、ブロックチェーンが作る新たな社会の可能性を探る加藤明洋、群衆シミュレーションの手法で作品を手掛ける綿貫岳海の3名のクリエイターから成るチーム。2022年《かぞくっち》プロジェクトを始動。

Photo: Ioto Yamauchi



gluon + 3D Digital Archive Project

建築とテクノロジーの両分野に精通し、都市の新たな価値を創出する領域横断型の研究開発、提案を行うチーム。実空間とデジタル空間を繋ぐプラットフォーム「コモングラウンド」の構築を通じて、人とデジタルエージェントが共存する新たな世界を目指す。

Qosmo

Qosmo

Qosmo AI Creativity & Music Lab は、AI 研究者、エンジニア、アーティスト、デザイナーなどから構成される東京を拠点としたコレクティブ。AI を用いた人の創造性の拡張、未知なる音楽の探求などに取り組む。2018年 アルス・エレクトロニカ栄誉賞。



佐藤朋子

1990年生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。自身の身体を用いた広範囲な調査をもとに物語を構築し、レクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行う。近年のプロジェクトに『往復朗読』『オバケ東京のためのインデックス』など。



セマーン・ペトラ

1994年生まれ、ハンガリー出身。アニメやゲームのような風景を用いた映像作品を制作。フィクションで飽和する現代において、記憶や自己イメージがどのように形成されるのかを探求する。2022年 The Arts Foundation Futures Awards ファイナリスト。

Photo: Aira Miyawaki / NTT Inter Communication Center [ICCI]



Tomo Kihara & Playfool

木原共と Playfool (コッペン・ダニエル) との協働チーム。「遊び」をテーマに、創造性を育む道具のデザインや、社会・都市に介入するアートプロジェクトを国内外で展開。近年、ヴィクトリア&アルバート博物館やアルス・エレクトロニカなどで展示。

Photo: Tada (Yukai)



長谷川愛

アーティスト。バイオアートやスペキュラティヴ・デザイン等の手法によって、生物学的課題や科学技術の進歩をモチーフに、現代社会に潜む諸問題を掘り出す作品を発表している。IAMAS、RCA、MIT Media Lab 卒。2023年度から慶應義塾大学理工学部准教授。



藤倉麻子

1992年生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。都市・郊外のインフラストラクチャーや物流に注目し、3DCG アニメーションの手法を用いた映像作品を制作。令和4年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業採択。

◀特別展示▶

東京藝術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻 八谷和彦研究室



平野真美

東京藝術大学大学院 先端芸術表現専攻在籍。不在や死への向き合い方を問いながら、闘病中の愛犬や架空のユニコーンなど、実在／非実在生物の生体構築や生命の保存、蘇生を試みる作品を制作している。近年の展示に「ab-sence/ac-cept 不在の観測」 岐阜県美術館（2021）など。



島田清夏

東京藝術大学大学院 先端芸術表現専攻在籍。花火の持つエネルギーに魅了され、火薬学や文化・歴史など多角的な観点から花火についてリサーチし、作品を制作している。また花火師としても活動し、ハノーヴァー国際花火競技会をはじめ、国内外の花火大会に花火演出家として参加。

Photo: Utsuki Nishi

◀関連展示▶

東京のミエナイモノ

都市生活を支える東京都の DX 事業を展示



クリエイティブディレクター 田尾圭一郎

アートの企画・編集・コンサルティングを手掛ける「田尾企画 編集室」代表。博報堂を経たのち、美術出版社「美術手帖」ユニットにて企業や自治体とのアートプロジェクトの企画、地域芸術祭の広報支援、雑誌・書籍の編集、展示企画などに携わる。主なプロジェクトに「文化資本経営促進に関する調査研究事業」（経済産業省）、「文化経済戦略推進事業」（文化庁）、「ZOOOOOM ART PROJECT」、「美術手帖×VOLVO ART PROJECT」など。ウェブメディア「prepar.art」編集主幹。

Photo by Masaru Tatsuji



キュレーター 塚田有那

編集者、キュレーター。一般社団法人 Whole Universe 代表理事。ウェブメディア「Bound Baw」編集長、「DISTANCE.media」編集委員。2016～21 年 JST/RISTEX「人と情報のエコシステム（HITE）」のメディア戦略を担当。2021 年より、岩手県遠野市の民俗文化をめぐるツアー「遠野巡灯籠木（トオノメグリトログ）」を主催。2021、22 年 現代社会をめぐる様々な死をテーマとした展覧会「END 展」を主催。近年の編著作に『RE-END 死から問うテクノロジーと社会』（人工知能学会 AI ELSI 賞受賞）、『ART SCIENCE is. アートサイエンスが導く世界の変容』。

「都市にひそむミエナイモノ展 Invisibles in the Neo City」 開催概要詳細

会 期：2023年12月15日（金）～2024年3月10日（日）

休 業 日：月曜日（ただし1月8日、2月12日は開場）、1月9日、1月24日、2月13日、
年未年始（12月29日～1月3日）

開場時間：平日 11:00～21:00（最終入場 20:30）／土休日 10:00～19:00（最終入場 18:30）

入場料金：無料

会 場：SusHi Tech Square 1F Space 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-8-3（東京交通会館向かい）

主 催：東京都

公式サイト：<https://sushitech-real.metro.tokyo.lg.jp/second/>

S N S：Instagram (@sushitech_space)

YouTube (https://www.youtube.com/@sushitech_space)

SusHi Tech Square について

“実践”と“発信”を通じて SusHi Tech Tokyo を広げる場。STT を盛り上げる、創造性に富んだコンテンツを発信する自在な活動が可能な空間（Space）。STT の実践を通じ、イノベーションを創出、スタートアップと多様な主体が交流する基地（Base）。イベントの共同開催など、建物を一体的に活用し、Square から世界に向けて SusHi Tech Tokyo を発信します。

【同時開催】

「Art as Catalyst – 創造性を触発するアーティストたち」 会期：2023年12月15日（金）～24日（日）

「SusHi Tech Tokyo」とは

東京都では最先端のテクノロジー、多彩なアイデアやデジタルノウハウによって、世界共通の都市課題を克服する「持続可能な新しい価値」を生み出す「Sustainable High City Tech Tokyo = SusHi Tech Tokyo」を世界に向けて、発信しています。東京の持つ強み・ポテンシャルをワンブランドで展開することで、東京の価値を国際社会に浸透させていきます。 HP：<https://www.sushi-tech-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/top/>

広報画像提供素材

以下 URL、QR コードよりダウンロードください。

※11月20日（月）14時以降順次ダウンロード可能予定

ダウンロード先 URL：<https://qr.paps.jp/c7ImJ>

ダウンロード有効期限：2024-3-10

下記のオフィシャル写真をダウンロードしていただけます。

- ・メインビジュアル
- ・クリエイター＋クリエイティブディレクター＋キュレーター画像
- ・クリエイター過去作品参考画像



掲載物送付のお願い

掲載記事・放送番組内容につきましては、基本情報などの事実確認のため、グラ刷り・原稿の段階で、下記広報事務局までお送りください。また、お手数ですが掲載紙/誌、同録 DVD をご送付くださいますようお願い申し上げます。

《報道関係のお問い合わせ》

SusHi Tech Space メディアアート展広報事務局（ユース・プランニング センター内）担当：平野、齊藤
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町 9-8 KN 渋谷 3 ビル 4F
TEL：03-6826-1215 FAX：03-6821-8869 E-mail：sts-art2023@ypcpr.com